

平成30年 安茂里地区 成人祝賀式 挙行される



差出南・大門・杏花台・小路・西河原・伊勢宮のみなさん 平成30年1月3日



発行所
長野市立安茂里公民館
電話 226-4059
発行人 多田井 幸視
発行月 5.7.9.11.1.3月
(株) 信光社

安茂里地区 世帯数と人口 (2月1日現在)

世帯数	9,052戸
総人口	21,230人
男	10,157人
女	11,073人

新成人代表謝辞

山田 康晴



本日は、私たち新成人のために、このように盛大な式典を挙げていただき、心からお礼申し上げます。またご臨席たまわりました多くのご来賓の皆様へ感謝を申し上げます。

先程は、お祝いの言葉をいただき、合わせて記念品をいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。心温まる祝辞には、新成人としての決意を新たにしたいのと同時に、今後の責任の重大さを痛感しています。今まで私たちが支えてくださった家族はもちろんのこと、お世話になった先生方、地域の方々には、感謝の念に堪えません。本日の成人式で懐かしい友人や先生方とお会いしたくさんの思い出がこみあげてきました。学校生活では、共に学業や部活動に励み、楽しいことも、辛いことも経験

し、たくさんの方の失敗をして成長してきました。この二十年間の思い出は一つ無駄ではなく、これからの私たちが社会で生きていくために必要なもののように思っています。

この先の人生で大きな壁や困難に立ち向かわなくてはならない日もあるでしょう。そんな時は、今日の成人式の晴々しい姿や決意に満ちた新鮮な気持ちを思い出し、今まで経験してきたことを糧に前向きに考えて、挑戦していきたいと思っています。

私たちの中には既に社会人として充実感を持つて働いているものもいれば、学生として学びを深めているものもあります。置かれた状況は人さまざまですが、今日から、大人社会の一員であることに変わりはありません。未熟な私たちがですが、今後ともご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。私たちは先人に学び、志を高く掲げ、決して恥じることのない生き方をしなくてはならないと思います。そのことこそが成人としての使命ではないかと感じています。最後にありがとうございました。本日の式典を挙げていただき、心から感謝申し上げます。新成人を代表して謝辞とさせていただきます。

杏仁

指定管理移行後
一年が経過する安茂里公民館は、今年度多数の方々に利用いただき、連

日夜まで部屋が埋まる状態だ。1月までの利用状況をみても、本館・小市分室合わせて月平均123団体、4376人が利用しており、今後も公民館が生涯学習の場を提供していく役割には大きいものがある。▼多数利用される安茂里公民館は、地域の方々の学ぶ意欲と仲間づくりによる絆の強さを物語っていないだろうか。そのためにも敷居を低くし、だれでも気軽に足を運べる公民館をめざしたい。▼毎回講座利用後に片付けるパイプ椅子を、キャスターに乗せて収納庫に納める際、敷居部分の突起に引っ掛かって納めにくかった。思案の末、ゴム製段差スロープを敷居両脇に設置したところ、簡単に出入れできるようになった。たった5ミリの、ゴムの厚さがなせる業であった。足元から敷居を低くし、これからも公民館利用の促進を図りたいものだ。

成人式に 参加して

二十歳の抱負

山本恵里奈



先日、多くの懐かしい友人たちと再会し、無事成人式を終えることができて嬉しく思います。

私には二十歳の抱負が二つあります。その一つ目は、自立することです。私は大学生になり、多くの事を経験する機会が増えました。初めて一人暮らしをすることで、家事をはじめ、自分の事は自分でやらないといけないため、母が今までどれだけ大変だったかということが今まで以上に理解できるようになりました。二つ目は、周りが見える大人になることです。私は大学で看護を学んでいます。サークルや実習などで様々な方と接する機会が多々あり、その中でたくさんの方の刺激を受けました。社会に出たら様々な人に出会い、今よりもっと分からないことに遭遇する場面もあると思います。その時、どのように対処できるかが、その人の人間性が問われるところだと思っています。同じ失敗は絶対してはいけないと思うし、過去の失敗や成功、様々な方と交流した経験を活かして日々精進していきたいと思っています。また、故郷である安茂里を大切に、誇りを持って大人としての道を歩んでいきたいと思っています。

成人式を迎えて

酒井 海成



成人式は、雪がちらつく寒い日となりました。しかし、実行委員として事前の会場準備を行っていた私は、それぞれ違う道を歩み始めた級友との久しぶりの再会に興奮気味でした。

役員ということで会場の公民館に早めに到着したのです



記念品贈呈

が、内心みんながどんな風になったかと気になり、あまり落ち着けませんでした。次第に集まってくる大人びた級友と戸惑いながらも実話話をしてみると小学校の仲間や、中学のクラス、部活動の仲間など、全員以前と同じ様な懐かしさを感じました。

自分は二十歳がもっと大人というイメージがありました。が、先生方のお話にもあった通り、皆、一緒に学び、遊び、競い合った仲間の心は変わっていませんでした。

皆、心身が成長してはいませんが、仲間を思いやる気持ちやこの故郷を思う気持ちなどはずっと変わらぬ大切にしているということです。

私もこの気持ちを忘れず、二十歳を迎えた社会人として成長出来る様に、残りの大学生活を歩んでいきたいと思っています。

公民館運営委員会から④ 地域に愛される学校

委員 加瀬 浩明



今は、どの学校でも地域とのつながりを大切に

した活動を行っています。私が勤務する裾花中学校でも、館報1月号で紹介させて頂いたように、様々な活動を行っています。少子高齢化が進行している現在、学校と地域が連携して子どもを育てることが重要であり、学校と地域、公民館は更に連携を深める必要があると思います。

さて、年末年始にかけて、長野県の高中生が全国大会で大活躍をしました。全国高校駅伝では、男子の佐久長聖高校が優勝、女子の長野東高校が準優勝、全国高校サッカーでは、上田西高校が3位になりました。日頃の取り組みが花開いたわけですが、報道で三校共、日常的に地域の皆さんが応援してくれていることを知りました。中でも、長野東高校は練習場所が犀川河川敷で、部員の皆さんは、地域

の皆さんへの挨拶や河川敷の草取り清掃などを欠かしません。地域の皆さんもコース整備を行う等、長野東高校の練習に協力してくれるそうです。準優勝して帰長したときに、一番先に向かった場所は、地域の皆さんが待つ河川敷だったことも放送されていました。地域に愛される学校は、これからのめざす姿です。裾花中学校でもアモーレフェスタやイルミネーション設置をはじめとして、地域での活動を大切にしていきますが、今後も地域や公民館と協力して活動を充実させ、地域に愛される学校をめざしたいと思います。



雨の中のイルミネーション設置

平成30年度

成人学校講座の内容

場所／長野市立安茂里公民館

講 座 名	曜・時間	1 学 期	2 学 期	3 学 期	講 師
手あみもの (定員20名)	(月) 午前 10:00 ～ 12:00	◎ 1 枚ごとに製図及び割り出しを指導。修了までには一人で製図ができます。 ○棒針編みの基本技法を学ぶ ○かんたんベスト ○レインボー模様のプルオーバー ○シンプルかぎ針ブルオーバー ○連続モチーフベスト ○かぎ針編みの小物 ○ラグラン袖セーター ○横編みベスト ○流行あみものなど"			岡村 啓子
英会話(初級) (定員30名)	(月) 午後 1:30 ～ 3:30	◎中1～高1程度の内容 特に、中学校で学習する文法や会話表現をしっかりと学ぶ。 ○リスニング、リーディング、音読を通して様々な英語を浴びる。 ○4～5月は、英語を思い出すようにあいさつ、数字などの基礎を重視する。 ○海外旅行で使用する基本的な表現を身につける。 ○週末の出来事などについて話せるようにする。			向山 智子
水墨画 (定員20名)	(月) 午後 1:30 ～ 3:30	○水墨画の歴史背景、水墨画の用具用材 ○三墨法の調墨から四君子(蘭・竹・菊・梅)等花鳥画の線描き、面描きの基本画法	○水墨風景画を描く。 樹葉法、山石法、雲煙法等の画法を基本に、水の表現(滝・溪流・湖沼・霧・雪)、水墨画で大切な余白の表現の基本画法	○作品を完成させる。 色紙、掛軸等の基本画法も含め作品を仕上げる。 ○各学期を通じて作品の画評会を行い鑑賞の知識を高める。	宮澤 祐司
書道 (定員20名)	(火) 午前 10:00 ～ 12:00	○漢字の学習 ・基本技法 ・楷書を習う ・行書を習う ・隷書を習う ○調和体の学習 ・基本学習 ・身近な言葉を書く ○かなの学習 ・いろは単体を習う ・変体がなを習う"	○漢字の学習 ・草書を習う ・古典を学ぶ 楷書、行書、草書 ○調和体の学習 ・詩、歌、文章を書く ○かなの学習 ・古筆を学ぶ ・俳句を書く ・和歌を書く	○作品の制作 ・漢字、調和体、かなとも作品に仕上げる	新井 清玉
英会話(中級) (定員20名)	(火) 午後 1:30 ～ 3:30	○フリートートキング(できるだけ英語のみで) ○テキスト・カード等を使用して基本的な会話力をつける。(中3～高2程度の内容)	○フリートートキング ○各自話題を持ち寄って(新聞・TV等のニュース、身の回りの出来事、その他について)	○フリートートキング 更に会話力をつける。	近藤 秀子
水彩画 (定員20名)	(木) 午後 1:30 ～ 3:30	○絵画(水彩画)の基本的な心構え ○水彩画の特徴を知り有効的な表現を高める ○いろいろな用紙を活用し、その特徴を掴みその活用した表現の幅を掴める ○用具、材料などを自分が使いやすいように活用してみよう ○デッサン力を高めて豊かな表現や感動を豊かにしてみよう ○線や面を意識して内容表現をより豊かなものにしよう ○色を高め、混色・滲み・暈しなど技法を身につけ、より内容を高めることに心がけてみよう ○静物画・風景画・人物画・構想表現等を通して、ものをみる力や表現する力を養い感動を高めよう ○構図・配色・透明感・遠近感・質感等の表現が高めるようにする ○様々な表現をして水彩画の楽しさを知り、さらに自分しか出来ない個性豊かな表現をしてみよう ○自然の美しさに感動し野外の制作活動に幅を広げて楽しさを倍加する ○作品研究や批評会を通して自己の表現の幅を広め資質の向上に努める ○公民館の行事に参加し作品展示を通じて地域社会と交流し、また市内のギャラリーで展示し鑑賞者の意見の反応にも留意し向上に努めよう ○いろいろな展覧会を鑑賞し、または出品して資質の向上に努める ○新入生については個別にわかりやすく指導しますので安心して参加しましょう			飯島 文隆
楽しむ 「かな書道」 (定員20名)	(金) 午前 10:00 ～ 12:00	「書」を生活の中で楽しむためにまず、かな書道の基礎を学びます。(太筆、細筆を使用) ○かなの基本線 ○ひらがなの単体 ○変体がな ○連綿 (2～5文字くらいのもの) ○俳句を細筆で書く	○和歌の行書き ○手紙(年賀状を中心に) ○散らし書き ○太筆での作品制作	○和歌や俳句を短冊や半懐紙に書く ○作品に仕上げる ○「書」を生活の中で楽しむ	日詰 静琴

成人学校への入学手続き等

- 1 受付日 平成30年4月4日(水) ※10時から(新規受講者) ※10時45分から(継続受講者)
- 2 受講料 各学期8,000円(1、2、3学期毎に) 釣り銭のないようにお願いします。(材料費等は含まれません。)
- 3 回数 週1回で年間36回(1学期12回)



僕らの裏山プロジェクト 11/18(土)

学校紹介④

松ヶ丘小学校

家庭・地域と共にある
活力ある学校創り

春、平成三十年度の新入生は三十二名で一学級編制となり、六年後には各学年が単級の松ヶ丘小学校に生まれ変わっていきます。スピード感のある変化において、さらに手を携えていく方向が「家庭・地域と共にある活力ある松ヶ丘小学校創り」になります。規模は縮小傾向にあっても、地域に誇りうる魅力ある学校運営を地域の皆様と一緒に維持し続けることを目指します。

今年も多くの学習ボランティアの皆様「松ヶ丘小

援隊」として、学習サポートに入っていました。一端をご紹介いたします。六年生の家庭科の追究を終えての児童からのお礼の手紙に、ミシン裁縫ボランティアの方から寄せられたメッセージです。

…… お手紙、ありがとう。

素敵にレイアウトしてくれました。お手紙が嬉しいですね。文字も力が込められていて、とても上手。文章も伝わってきて感心です。さすがです。ナツプ

ザック作りでは完成を見届けられずに、本当にごめんなさいね。難しい紐を通すところ……うまくできて良かった、良かった。機会があったら

ナツプザックを見せてください。家庭科以外のことも、お話ししましょうね。知らせてください。まだ早いですが、卒業式にもあなたの晴れ姿を見守りにいきます。ますます活躍を！……

言葉のやりとりを通じて、互いをより理解し合い、ひとりの若い感性や学びの成長により多くの大人の眼差しで寄り添っていくことの大きな意味を感じ取ります。地域連携を通じて「縁の下の力持ち」という言葉が懐かしく思い返

されもします。周囲の大人たちの縁の下にある支えを受け、子どもたちは精一杯、今を過ごそうとしている。そんな世代を超えた関わりに深い感銘を受けます。地域に貢献し、

地域を誇れる大人に成長する若人の可能性に私たち大人はすべてを賭ける。未来の小市の学校を思い描いたとき、そんな強い想いを抱きます。

子どもたちとの新しい出逢いと活力ある学校創りの春が、また巡ってきます。

人権を考える
住民の集いに参加して

佐藤 重房

1月13日(土)埴生中学校長 丑丸明英先生を講師に行われた、「安茂里地区人権を考える住民の集い」に参加した。学生時代に道徳授業を受けて以来、人権について考える時間を得たが、普段生活の中で無意識に他人の人権を傷つけていることもあるのではと、改めて考えさせられた。丑丸先生の講演は分かりやすく、身近に人権を考えることができ、講演の中で聞いた歌詞の意味が心に深く響いた。その「いのちの理由」の歌詞を今

読み返し、改めて人権の意味を考える。今日から日々の生活の中でも考え続けていきたい。全ての人の人権が尊重され、差別のない社会の実現を目指して。

第42回囲碁将棋大会 地区対抗戦行われる

去る2月4日(日)午前9時から、第42回囲碁将棋大会が安茂里公民館主催で行われ、終日熱戦が繰り広げられました。

《団体戦の結果》

囲碁の部	
優勝	犀北
準優勝	園沖
3位	宮沖
将棋の部	
優勝	差出北
準優勝	小市A
3位	伊勢宮A

短歌趣味の会

初春の志賀の山並み眺めつつ
ひたすら祈る戦なき明日

傳田 紀昭

初雪にはしやぎ庭へと出る姪は
キャハハと笑う冬の妖精

磯野 智子

隣人のただいまの声二度聞こゆ
妻亡くせし後の今も変わらず

堀内 敬子

背を丸め顔を近づけ話しゆく
高齢二人吹雪の中を

小林 道子

黄金の八十歳はこれからと
誰にともなく咳いてみる

林 道子

「戦後何年」という言い方続いてと
小百合の祈り次世代見つむ

水野 博

震災の深き傷秘め復興への
絆うれしと笑顔に語る

酒井 純子

冷凍庫の中にいる様な寒さなり
下校の子等は家路を急ぐ

山崎 徳男

いま暫し寒明け待つも川面には
まぶしく光る小波のたつ

小林 靖子

休日の携帯ショップに親子づれ
春のスタート漂わせお

寺島 みき子